

令和3年度 第3回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和3年度 第3回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和3年10月1日 午後2時00分から午後3時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 3階 全員協議会室
4	出席者	遠藤委員(会長)、村上委員(副会長)、中屋委員、保尊委員、増田委員、相馬委員、山地委員、岡江委員、高原委員、宮澤委員
5	市側出席者	山田市民生活部長、山口環境課長、百瀬環境保全係長、藤原環境保全係主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和3年10月5日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 【施策1、2及び3】次期行動計画への掲載内容について
  - (2) 【施策4、5及び6】各施策の現状と今後の方向性について
- 4 その他
- 5 閉会

会議概要

- 1 協議事項
  - (1) 【施策1、2及び3】次期行動計画への掲載内容について  
**【事務局から資料1に基づき、次期行動計画への掲載内容について説明】**
    - ・ 施策番号1-1の「水田機能維持・地力増進推進事業」に関して、7月から9月の時期に麦後湛水ということで水をいくらかけても、地下に染み込むものは染み込むと思うが、ほとんどの水がそのまま流れ出てしまう。一番下流の三川合流部にどんと水が流れ出ている状況下で、予算をかけてまで実施することなのか疑問がある。涵養よりも節水に軸足を移していくべきではないかと思う。
    - ・ 施策番号1-5の「定期的な実態調査（一斉測水等）の実施」について、黒沢川とあづみの排水路が接続された場合の効果を確認するためには、連続のモニタリングを実施することが必要だと考える。1年ですぐに効果が出るか分からないので、5～6年はモニタリングを続けていってほしい。
    - ・ 以前、事務局に施策番号1-7の「地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行」の中に、「グリーンインフラ」という視点を入れたらどうかといった提案をさせていただいた。この「グリーンインフラ」という概念に関しては、国の動向とも歩調を合わせるといふ点でも取り組んでいければよいと思う。
    - ・ 原点に立ち返ってみると、冬場の水が一番少なくなるときに、その減少をどれだけ抑えられるか、そのためにどういった政策を打っていくかということが当初の問題意識だったと思うので、もう一度、原点に戻って考えることが大切である。
    - ・ 水路の全面3面張りによって水の地下浸透が少なくなったため、地下水の減少が起こっ

ている。冬場の田んぼに水を入れられればよいが、それが難しいという話なので、この辺りが問題だと思う。

- ・施策番号2-3の「揚水者に対する揚水再活用の要請とフォローアップ」に関して、安曇野市の場合は地下水採取審査委員会を開催して、地下水の汲み上げについて事業者に一定の条件等を付すことも可能だが、すべての近隣市町村がこういった取組をしているわけではない。安曇野市を含めた近隣市町村の中で統一基準を作って、安曇野市がリーダーシップをとって一定の規制を事業者に対して行っていくことが必要ではないか。

⇒近隣市町村等（松本市、大町市、塩尻市等）、そして県の機関を含めた「アルプス地域地下水保全対策協議会」という組織があり、事業者に制限までかけることはできないが、この中で情報共有を図り、注視していくような形をとっている。

- ・地下水を汲み上げる量と涵養量のバランスが崩れている。例えば、夏場は1.5倍汲み上げてもよいが、冬場はその分汲み上げを控えるといったように、夏場と冬場の地下水の汲み上げ量に一定の制限を設けることはできないか。
- ・山を守っていくことが水の確保につながると思うので、山の整備も考えてみたらどうか。
- ・北アルプスの帯水層は薄いので保水量は小さい。木々を増やしたり間伐をしたりしても、大きな効果は期待できない。やはり、川からの涵養を増やすことが効果的だと思う。川の流路を変えると涵養が増えることもある。
- ・この計画を市民に知ってもらい、理解してもらうために、何か取組を考えてもらいたい。
- ・夏場に力点を置いた施策なのか、冬場に力点を置いた施策なのか、そういった点について盛り込めば、行動計画のバージョンアップにつながるのではないか。
- ・施策番号1-7の「地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行」の中に、国等への要望活動に係る記載があってもよいのではないか。

## (2) 【施策4、5及び6】各施策の現状と今後の方向性について

【事務局から資料2に基づき、各施策の現状と今後の方向性について説明】

【事務局から資料2の施策番号4-2「定期的なイベントの開催・参加の場を捉えた積極的な広報・啓発」の中の下段「次期計画で目指すべき目標（令和8年度）」の部分に関して、「1回/年以上の広報・啓発を実施」と修正させていただきたいことも説明】

- ・涵養施策だけではなく、節水施策をもっと盛り込んで、取り組んでほしい。企業に補助金を出すとか、ほかにもいろいろと取組が考えられると思う。
- ・市民に向けて節水の取組を広げていくことに加え、企業に対しては中水道を促進するような取組はできないか問いかけを行ってほしい。
- ・雨水の利用とか雨水の地下涵養の取組については、どこかに盛り込んであるのか。

⇒資料1の8ページの施策番号2-1「節水に関する普及啓発」の中に、「雨水貯留施設の設置に対する補助を行う。」といった形で雨水利用の取組については盛り込ませていただいている。

- ・雨水の涵養についてはどうか。

⇒涵養に関しては、住宅を建てるときに宅内処理というような形で行っており、その中で涵養されているものと考えている。

- ・外国の例を見ると、車を入れないまちづくりという考え方がある。道路、つまりアスファルトではなく、水を浸透させる緑豊かなまちづくりを目指すものであるが、そういった方向性も検討していてもよいのではないか。

- ・施策番号5-1の「市内関係者による地下水協力金の検討・実施」の中の一番下に「次期計画で目指すべき目標（令和8年度）」という箇所があり、そこで「協力金の調達開始」という記載がある。この部分に関して、資金調達は「冬水田んぼ」を行うという目標があって、そのために資金が必要というところからスタートしている。「冬水田んぼ」が実施困難になっている現状に鑑みれば、この部分はワンクッション置いて、「協力金に係る必要性の検討継続」というような表記が望ましいと思う。

- ・資金調達に関して、次の計画で目指すべき目標は、効果的な涵養施策を見つけることではないか。

## 2 その他

【事務局から、次回審議会の開催予定日時（11月9日（火）午前10時から）について連絡】

- ・意見等は特になし。

<終了 15:30>

以上